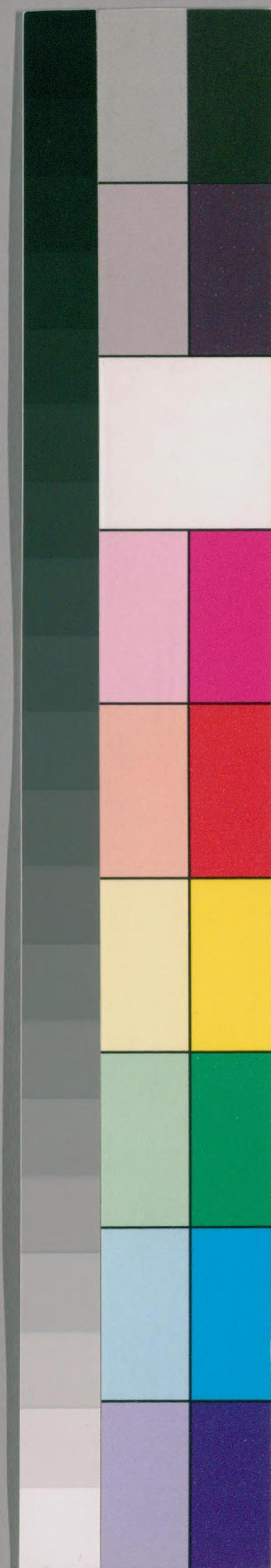


頤生輯要

863
196

共六



国立国会図書館 タイトル『古今養性論和解』 請求記号 863-196

ガラス使用

松平直亮

古今養性論和解序

古今養性論和解序

孔子曰曾參曰天下此達尊三爵一

德一也者郷黨一也

尊長也

尊長也

尊長也

尊長也

尊長也

松平直亮氏寄贈本

24. 2. 10
3 29



誤て序乎乞^ふひ^らめ^るを^と視^るて^は古今養性
 論和解と題して世書も亦^も養生^の所^をあり
 を述^ぶる^にい^へども益^を斬^る先^に生^を以^てて^は行^は住^を坐^を臥^をも
 事^に物^を小^に付^て九^折不^喜生^乃以^てか^を述^ぶ
 不^もと^ある^は萬^物を^天地^乃疾^をを^て説^出し
 陰^陽乃^生發^收を^先染^親切^小説^て陰^陽の
 消息^を主^として^は道家^の丹^を練^る不^以つ^るの
 何^れ莊^周所^謂與^物相^忘而^自然^中の^大命^と

養生のふりし^る者^乃意^にお^とる^はれ^何等^の
 人^もや^法を^かく^て性^をと^ると^も各^々
 養生^所の^主意^を老^丈思^ふは^れ小^異同^と
 者^を以^て養生^の序^を乞^ふ小^乾て^拙老^丈が
 見^がく^跋小^かり^て補^篇と^述之^乃區^別を
 具^して^は觀^る人^も亦^もば^ある^は養生^の妙^をと^る
 へ^も性^を所^に亦^もの^補と^もあ^る處^を以^てて^は乃^肯趣^をと^断く^序と^るの^妙



天明七年未姑洗

華浴

居行誌

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

古今養性論和解

勇々數勇
ハ韻書三猛
也トテ少モ
ヨロミナク
タケキヲ云
○濟ハ渡也
國家ヲスク
ウ事松橋
海川ニテ入
ヲワタシ濟
ハ如クテ六
濟ハ渡ノ字
ト同シ
○救ハ助也
タスケスク
ウナリ

古今養性論和解
夫人ノ世ニアル衣食住ノ三ツヨクト、ノホリ心ノマ、ナリトテ
其身病アリテハ一日モ樂アルコトナシ。其病ヲカ子テフセ
ギ壽ヲ保ツハ醫道ナリ。然ラハ醫ヲ學テ養性ノ道ヲ
心得タキ事ナリ。カクイヘバトテ。勇々シキ武士ニ生レ
付タル人。其役ヲ厭テ。醫者ニナリ法躰スルハ何事ゾヤ。
誠ニ達スルトキハ良相ト成テ天下國家ヲ濟ヒ。不達
則、良醫ト成テ天下國家ヲ救フ。良相ト良醫ト天下
國家ヲ濟ヒ救フ事。政道ト醫道トナリ。定テ泰平ノ御
世ナレバ。武功ハ顯シ難キ故ニ。其道ヲ替テ醫師ニ成テ
其效ヲ顯サントヤ。有難志ナリ。サアラシニ於テハ。百仕ハ



○東坡名職
字子瞻宋朝
ノ大儒
○山谷字遊
堅東坡ト同
時ノ人
○庵安常宋
朝ノ名醫東
坡山谷ガ友也
○朱文公名
喜字子晦菴
宋朝ノ大儒
○長陽長醫
長陽ハ地ノ
名也夏醫モ
文公同時ノ
名醫也
○吳幼清元
朝ノ人
○戴同甫同
元朝ノ名醫
作原談判異

ル、國主モ此人ヲ醫トナシテ。國家ノ萬病圓ト用ヒ給
ハ。何ノ御損トイフ事カコレアラフニ。御重寶至極ナリ。サ
レドモソレマデ立ノホリタルハ稀ナルベシ。嚮ニ言所ノ醫者
多ケレバ。君タル人能ク明ニシテ毒ニナラサルヤウニ召
ツカハルベシ。余ガ云所ノ醫者ハ生得ノ家業ヲカヘヨト
云ニハアラス。家業ト云テ勤メテ醫道ヲモシレトナリ。
東坡山谷ハ醫ノ庵安常ヲ伴ヒ。朱文公ハ長陽夏醫ニ
交リ。吳幼清ハ戴同甫ヲ知ノ類多シ。然レバ醫者ニハ
一ニハリテ生ベキ者ノ生ヌル保養ヲ問。越人ガ曰。非能
生死人也。此目當生者。越人能使之起耳トイヘリ。大名
モ小名モ農工商ニ至ルマデ。美食媯酒ヲ事トシテ。

○越ハ則
秦越ハ也上
古ノ名醫
起トハ病
ヲヨク療シ
テ本ノ如ク
平愈スラ云
戸樞不蠹
トハ古語アリ
常ノ人起居
ニアル所ナ
ハ虫カム間
モナキナリ
流水不腐
ト是モ同シ
意ニテ間斷
ナク流水ノ水
ハ腐ズキ間
モナキ也

身ノハタラキノナキ人ハ。病ヲ受テ害多シ。農人ハ春ハ
耕シ夏ハ耘リ秋ハ穫。其三時ノ勤メニ聊暇ノアラサーハ。
夜ハ安眠其寢ス因茲非心淫念ノ生スル事稀ナリナ。
工商モ亦其職々ニ際ナケレバ。此等ノ責モ嘗テ寡シ。
御咎ハ大名富貴ノ上ニコソ。飽マデ多ク侍リキ。戸樞不
蠹。流水不腐。樹タトヘテ顧テ。飲食ヲ節ニシ。房事ヲ慎シ
三。夜食晝寢ヲ禁シツ。食後ノ行歩兵法ヤ。馬ヲ自
路ニ乘テヨシ。少ノ病ノ時油断シテ。大病ノ時悔ル者
ハ。神ヤ佛ノシルヤウニ金銀多ク費シテ祈念祈禱ヲ
シタリトモ。神ハ非禮ヲ受サレバ。正直ノ頭ニヤドルモノ
アラジ。サレバ子トシテ父母ノ病ンデ床ニ卧タル時。

邪僻
トハ
ニガヒ
ガミ
ノム

尋常オロカナル醫ニ打任セン事。害ヲ致スニ近ケレ
バ。不孝ノ罪夥シ。因茲子醫ヲ知トキハ。常ニ能親
養フニテアラスヤ。子ノ病ル時親醫ヲ不知。尋常ノ
醫ニ見セヌル事。是又不慈ニテアラサルヤ。今時邪僻
ナル者ノ上ヲ取沙汰スルハ。已レガ氣ニサヘアヘバ。下
手ヲ上手ト譽。已レガ氣ニ合ザレバ。上手ヲ下手トソレル。
嗟乎悲乎。世ハ愚ナル者多ケレバ。ソレヲ誠ニスル者
多シ。下手ヲ上手。上手ヲ下手ト言ハ一人ノ私言也。
タトハ北京ナル醫者ノ時メキワタルガ。數世ノ醫師法
印ナド、呼ル、人ニ遇テ。互ニ醫學ヲ談話スル時。ソナ
タ八年モワカシ。習ヘル功モ深カラレト。已レハ家傳ノ

鉛刀之割

トハ古語リ
鉛刀ハチマ
カクも也ニ
キモノトテ
アテツドモ
一タヒヨク
キルハアリ
アテツルベ
ラストナリ

宿醫顔シテ云ヌレバ。左様ニモ有ベケレドモ。一歳ノ猫児ノ
十歳ノ鼠ヲ取モアレバ。其人ニヨルベクヤアラン。尤老テ
醫學アリ。病功ヲ積。療治ヨクスル人ハ沙汰ノ外ナリ。
老テ醫學ナク。病功ヲ不積。療治下手ナルハ。沙汰ノ限
ナリ。取詮タ、醫者ハ醫學ヲ勤テ。人ノ病ヲ痊スヲ以
是ヲ譽。醫學ヲ不勤人ノ病ヲ不痊ヲ以下手トス。上
手ノ醫師モ病証見誤リタル多シ。下手ノ醫者ニモ
病証能見タルモ多シ。上手ハ時トシテ見アヤマリ。下手
ハ時トシテ能見タリ。世ノ愚者。是ヲ見聞シテ。時トシテ
能見タルヲ以醫道功者ノ上手トセンヤ。時トシテ見誤
リタルヲ以醫道無功ノ下手トセンヤ。萬事ニ付テ鉛刀

養性

三



崇仰トハノ事メタツトフト云フ
事トハヨリアリ
係ツチカハルト云フ

ノ一割ト云古語ヲ用ヒ給ヘ老年若年ニハヨルベカノ
ス。病ヲヨク愈スヲ崇仰有ヘシ

○夫惟ルニ病ハ人間生死ノ所後万物ハ天地ノ病ナリ。
凡無物ニ物生シ。無事ニ事ノ起ル。天ニ在テ、天ノ病。地ニ
在テハ地ノ病。國ニ在テハ國ノ病。人ニ在テハ人ノ病。草木
ニ在テハ草木ノ病。鳥獸ニ在テハ鳥獸ノ病ナリ。青天白日
ノ時ハ。無物無事ニシテ。天モ無病ノ時ナリ。忽ニ雲興
リ雷鳴稲光スルハ。是物ナキ所ニ物生シ。事ナキ所ニ
事起ル。即天ノ病也。忽ニ雲興ルハ。人ノ俄ニ痰又胸ニ
聚ルガ如シ。雷ノ鳴事ハ人ノ腹中ニ火動テ腸ノ鳴ガ如シ
雲ハ水也。雷ノ響事ハ水雲火氣ヲ包テ火内ニ動キ

水凝コト所ヘカ
カタリヨ
ヲ云

走ニ鳴物ナリ。人ノ腸ノ鳴モ火ナリ。痰ハ水也。雲ニ亦水
也。天ニ雲ナキ事アタハズ。人ニ痰ナキ事アタハズ。人ニ
ヨリテ多少ノカハリアレドモ。曾テ痰ナキト云人ハ
アラザル也。雲ハ天上ニ浮ヲ見テ雲アリト知痰ハ胸ニ
アツマルヲ覺エテ痰有トイヘドモ。痰ハ常ニ捲身ノ中
此彼ニ在モノ也。雲モ此彼ニ在テ。風ニ隨テ聚マサ。痰ハ
氣ノ上ルニヨリテ胸ニアツマル。天氣ハ降地氣ハ外ル。其
外ル事偏ナル時ハ夕月照シ夕夕雨フル。天地順ナラ
サル時水アツマリテ雲トナル。人ノ氣塞リ滞シハ水凝
テ痰トナル。雲ハ天中ノ病。痰ハ人身ノ病ナリ。痰ヲ見ル
事雲ノ如ク。雲ヲ見ル事痰ノ如シ。病ト云ハ陰陽雜リ



混トハモノ、相ミシ、ハリ一ツニナルヲ混ミ雜トモ云
純一トハモ一ツハラ
ニ一ツニナル
ヲ云
喘トハノキハナク
シキヲ云
咳トハセクナリ
嘔吐ニモモ二モ
ノヲハク也

清濁混シテ。氣塞リ閉タル所ヨリ生ズルモノ也。氣純
一ニシテ無雜ナル時ハ病ナシ。人モ亦氣順ズル時ハ其
氣全ク一身ニワタリ。氣不順ノ時ハ處々ニ滯ル。中部
下部ノ間ニ滯レバ。其所ハ熱氣生ジ。其熱上ニ昇テ。頭
痛シ。背腰骨節ニ熱氣サシ入テ疼ヲナス。喘咳嘔吐
種々ノ病ヲ生ス。は無事ニ更起ル物也。又腹中ニ虫積
様々形アル物生ジテ。人ヲナヤマス。是无物ニ物生ズル
也。事トハ万事也。身ノ悩ム事一ナラス。物トハ万物也。
虫積等ノモノ是又一ナラス。ヨロツトイハバモル、事ナ
ク。モル、物ナシ。始ハ無事也。無物也。然ルニ其節ニ事ノ
起ルハ。陰陽雜リ。清濁混シテ後其間ニ物生ジ事起ル。

蝨シ、トハノキ、ハナク、シキヲ云
蠅トハセク、ナリ
蠅トハセク、ナリ
蠅トハセク、ナリ

一身ヲ以テ廣ク天地ヲ見レバ。天地ノ間ニ生ズル物ノ
細ヲ極レバ。一身ト同ジ。然レバ天地ニ生ズル者ハ天地ノ清
ナリ。草腐テ虫トナリ。魚腐レテ蟲ノ生ズルモ。陰陽混
シ寒温相拍テ。物損シテ後生ズルモノ也。天地本清淨也。
雜リ混シテ後不淨トナル。清淨ノ所ニハ物生ゼズ。不淨ノ
地ニハ蝨蠅蠅蟻ノ類出生ス。清淨ナル水モ損ズレバ。一
ノ洞出來テ。清濁雜リ混シテ。又シテ鱗生ズ。池水初ハ鏡
ヲ磨カ如シ。風塵折々浮シテ水滑ニナリテ。時ナクニ
何ヲ種トテ萍ノ浪ノウ子ク生茂リヌ。野水初ハ鱗ナ
シ。池水初ハ萍ナシ。清濁混シテ不淨ナレバ。人ノ身ノ中
ニモ物生ズ。土ニ木生ズ。木ハ土ノ病ナリ。故ニ土ハ木ニ殺

サハル木ニ虫生ズ。其木必枯レヌ。野ニハ草多ク生ジテ野
荒草ニハ虫多ク生ジテ葉是ニ蠹シ。林ニ獸生ジテ木
ノ根是ニ蟻蝨タル。身ニ蠶蟲生ジテ是ニ血ヲアヘサル。物
ニ在テハ其物ノ病。天地ニ在テハ天地ノ病。水ニ在テハ水
ノ病。草木ニ在テハ草木ノ病。人ヲモ其中ニ箠テ。萬物
コトぐク天地ノ病也。男女ノ交ハ陰陽ナリ。上下ニ分テ
ハ天地ナリ。乾坤ノ二卦ナリ。乾ヲ父トシ坤ヲ母トス。男
ハ清ニ氣女ハ濁ル氣也。其ニノ物交レバ。清濁混シテ氣
塞カリ。女ノ血ト。ニリテ不流。女十月病リ。其月无テ其
子胎ヲ出ル。女ノ一生實ニ子ヲ病トス。火ハ木ガ子ナリ。
木ハ子ノ火ニ焦サレテ果シテ盡ルモノ也。然レバ木ヨリ

養性論

五

有情 トハ人ノ
間ヲ
鳥カケモ
三テ心アル云

出ル火ハ木ノ病也。土ハ火ガ子ナリ。火終ニ消テ土ハ灰ト
ナル。火ヨリ出ル土ハ火ガ病也。金ハ土ガ子ナリ。金生シ又
レバ土ハ性モナキ物ニナリヌレバ。金モ土ノ爲ニハ病ナリ。
水ハ金ガ子ナリ。子ノ水生ジヌレバ。濕ヒヲ子ニトラレテ。
金カハク時ハ。金ノ性盡ル。是又金ヨリ出ル水ハ金ノ病
ナリ。木ハ水ノ子ナリ。木ハ水ノ濕ヒノトツテ枝ハ花實
ト榮フ。此故ニ水ヨリ生ズル木ハ水ノ病ナリ。爰ヲ以テ母
虚スルトキハ其子ヲ補トイヘリ。子飢テ母ノ食ヲ奪理ナ
ルベシ。五行如此ナレバ。五行ヨリ生ズル萬物ニテ此本意ニ
タカフ事ナシ。陰陽ノツルミニヨリテ物ノ生ズル事。有情非
情トモニ道理ハ同ジ。氣專ラナルトキハ病ナシ。獨陽不生

非情 トハ
木之云

六



養性

虚耗トハ身
心ツキ

テウツカリト
ウツケタル病

ヲ云

七情ハ喜
怒憂

懼愛憎怒

ノセツナリル

人ノ病風寒

暑濕是ヲ外

感ト云ニナ

外ヨリウクル

病也七情ハ

ミツカラノ氣

ヨリタフコルユ

ト是ヲ内傷

ト云ニナリ

独陰不成バナレテヒトリト物ノ生ズル事ナリ。雜リテ不
流ニヨリテ万ノ病ハ生ズ。無病ト云。氣ノ順ズル名ナリ。病
ト云ハ氣ノ不順辞ナリト心得タラシハ養性ノ本タル
ヘシ。喜モ過レバ正氣散ジテ虚耗ノ病ヲナス。怒驚馬イ
ツレモ此三八七情ノ中ニテハ正氣ヲチラシテ。虚ノ病
ヲナス。喜トイヘルハ氣遊ンデ血中ニ行リ血濡デ顔色
ヲマヌ怒ハ氣急ニシテ血所々へ走り。眼ニ解ヲタテ
俄ニ息アラシ。驚ト云ハ物ノ俄ニ見聞ニアタリタル時
肝氣動テ魂散ズ。故ニ顔ノ色ヲ失フ。氣急ナル故ニ血
變ズ。肝ハ血ノ府也。血變ズル故ニ顔色青白ナリ。驚馬ク
事又肝ニアリ。喜ト怒トハ違順ノ二境ニ因テ。我ニ隨フ

リヤリ来ル
酒リ

時ハ喜ビ。我ニ違フ時ハ怒ル。喜ト怒ハ掌ノ如シ。觀セハ表
裡別ナレドモ。氣ト血トノサハク事ハ同じ。物憂シモノ思
ヒシ。悲ミ恐ル。此四ツハ何モ氣結シ血閉テ爵ノ病ヲナ
ス。爵ニ種々アレドモ。其本ハ氣一ツナリ。氣ハ散スルニ
減物ナレドモ。爵スルニモ亦ヘル物也。爵セズ散セズ只氣ヲ
調フト云事。養性ノ專用也。爵シテ氣ノヘルト云事。タト
ヘハ火ハ炭ナリ炭ハ火ナリ炭ヲハ爵氣ニタトヘ火ヲハ
正氣ニタトヘ炭多シテ火少ク有レバ炭ニ爵セラレテ火
消ル是氣爵シテ正氣ノ盡ルタトヘナリ亦爵ヲヒラケハ
氣生スト云テモ過レバ還テ正氣亦減モノ也。炭ノ爵ニ
ヨリテ火消ルトテ。少アル火ヲカキチラセハ。還テ火消ル

經明也明氣
 ナリト四季
 養性論ノリ
 三用アケテ
 累テト
 二年ノ運氣
 調フヲ用ト
 云土用ト云
 同シ
 廉上人氣土
 下アガリ
 タニカノ介
 ル云

が如シ。タゞ、氣ヲ調ヘテ、血ヲ順ズル心持専用ナリ。一年ハ
 五季ナリ。七十二日ヅ、五ツ合テ一年トス。春七十二日、夏
 七十二日、秋七十二日、冬七十二日、又春夏ノ間ト、夏秋ノ間
 ト、秋冬ノ間ト、冬、春ノ間ニ、十八日ヅ、土用ナリ。此四土用ヲ
 合セテ又七十二日。合セテ是五季ナリ。五季ヲ合セテ
 三百六十日也。然レバ五季ハ木火土金水ノ五行、各七十二
 日ヅ、旺ヲモツ時ナレバ、土用ナリトテ、土ノ七十二日旺ヲ
 モツ時ハカリ人ニタ、ルベキ道理ナリ。然ルニ無病ノ者モ土
 用ニハ心アシ、人ハ猶々々、リヲウクル事ハ、夏ノ火氣
 ト、秋ノ金氣、少リカハリ、其間ニアル十八日ナルユヘニ、兩
 氣交リテ、氣ノ躁ク時ナレバ、天地ト人ノ身ト同じキ故

ニ、外サハゲバ身ノ天地モサハク故也。土用ノタ、リヲナス
 ニハアラス。二季ノ、ジハル所ニ氣躁テ病ヲ發スル道理ナ
 リ。ジハラザレハ事ナシ。水穀、ジハリテ、酢酒ノ味ナルガ如
 シ。虫積ノ出ルト云事モ實ニアタリタル事也。凡虫積ナド
 云モノモ、人ノ家ニ居リ、鳥獸ノ巢ニ居、穴ニスム如ク人ノ
 臟腑ノ間ニヲノレヲノレガ巢ヲカ、ヘ引籠テ常ニアル
 モノ也。美食、大酒ナド飲、ハ常ヨリモ氣増テ氣溢シ。虫
 積ノ巢ヘ氣ガ籠入故ニ虫已レガ巢ニス三難クシテ、外
 へ出ルモノ也。然レバ虫出ルトイヘリ。熱氣ヲ病時モ必
 虫積サシ出、氣節ノカハリ土用ハ專ナドニサシ出モ皆
 氣ノウゴキ、ス故ナリ。腸胃甚ク熱シ。又キハメテ寒ルニ

モ虫胸へ出ノボツテ口へ出。又下へサガル事アリ。熱ニヨリ寒ニヨリテ虫巢ニアラズニテ出ルモノ也。寒ニヨリテ出ル虫ハ其色白シ。熱ニヨリテ口へ出。或ハ下へクダル虫ハ其色赤シ。虫死シテ出ルハ寒熱共ニ強シ。生テ出ルハ寒熱共ニ輕シ。美食好酒ヲヒカヘ。麤食ナレバ虫積持タル人モ一生クルシカラズシテ終ルモノ也。故ニ虫積ノ藥ハ氣ヲ降シ。耗スル藥味也。氣ヘルトキハ虫ヲノシカ巢ニヤスクシテアルモノ也。必藥ニテ虫ヲ殺スニハ非ス。虫ヲコロサントセハ人危カルベシ。タゞ氣ヲオサステ虫ヲ巢へカヘス心持也。又氣ノボツテ胸サキヲツ、ク事有テ痛ムヲモ。人常ニ虫咬ルナト云。虫ニテハナケレドモ。藥ハ虫藥ヲ飲テタガ

降火トハ
久ノホルヲク
クスヤウニス
藥ナリ

ハズ又火胸ニツキノボツテイタム事。是又虫ナリト常ニハノ云事也。常ノ虫藥ニテハ心持少カハリアリ。降火ノ藥ヨシ。ハ專ノ夕、リヲナスト云事。ハ專ハ壬子ニ入テ癸亥ニアク。ハ專ト書事ハ。ミツノヘノ水ト。子ノ水ト。メグリアヒ。甲乙ノ木ト。寅卯ノ木ト。メグリアヒ。カヤウ二十于五行十ニ支ノ五行ト。一ツニメグリアフ日八日アル故ニハ專ト云。專ハ專一ノ儀也。二ツノ物一ツニナル故也。ハ專十二日。其日ノ中四日ハ支于五行ノメグリニハツル、故ニ間日トイヘリ。犬牛龍馬ナリ。ハ專ハ五行一處ニメグリアフ故ニ。氣盛ニシテ病氣動ク。又ハ專ノ明ル次ノ日甲子ナリ六十一日ツ、ニテ六氣ノカハル時ナレバ。マジハル氣サハグ故ニ。病人

陰陽 ト云六
天地方

物皆此陰陽
ナキト云ト
ナシ天ハ陽地
ハ陰五行万物
ニテ此理ヲ備
フ詳ニ記スニ
ラヨバズ

夕、リヲウク。又甲子ハ六十一日ニメグリ。冬至ハ十一月ノ
中ナリ。冬至ノ後ノ甲子ノ日ニ、陽初メテ生
ズ。是ヲ初ノ氣ト云。第二ノ甲子第三ノ甲子是ヲ二ノ氣
三ノ氣ト云。又夏至ハ五月ノ中也。夏至ノ後ノ甲子ニ一陽
初メテ生ジテ陰陽コ、ニマシハル。是ヲ四ノ氣ト云。第五六
ノ甲子ヲ五ノ氣六ノ氣ト云。六十日ヅ、ニテ六々二百六十
日ニテ又前ノ年ノ如クニカヘリメグル甲子ノ人ノ身ニ夕、
ル事ハ陰陽カハル時ナレバ、譬テ云ニ。人ノ國所ヲ入カハル
ニ、コ、ヲ去モノ爰ニ來ルモノ相交テ、ツトヒサハクガ如シ。
カヤウニ心ヲ付テ。其前後ヲ慎ニスレバ、タ、リモ輕シ。カ
ハリ目ノ前後ニツ、レミナクシテ。外ハ風寒ニ感ジ、内ハ

支子 ト云
ヨリ委
マフナ子ト
マフヨリ支マ
アヲ十二支
一云

客氣 ト云
ノ支子
ノ間ニシハル
天地ノ氣ヲ云

食傷房事ナト冒セバ時節ノ夕、リト相合テ。病殊外重
クナル。此心持養性ノ爲ニ入事也。右ノ六氣ニ又其歲メグル
支子ニヨリテ。客氣ノ六ツガ添テメグル也。其歲ノ民ノ病ヲ
兼テ知其年ニ用ユベキ藥種ナト覺悟スル事醫ノ知所
ナリ。五行ト云事珍シカラ子トモ。五行ハ木火土金水ナリ
行ハ行列ナリ。五ノ數ヲ陳ル故ニ五行ト云。又此五行メグ
リテヤマヌ故ニ五行ト云。行ハメグル意ナリ。春ハ木夏ハ火
土用ハ土秋ハ金冬ハ水ナリ。五行各其時々ノ旺ナリ。春ハ木
ノ旺スル時ナリ。脾胃木ノ尅ヲウケテ死ノ位ナリ。酸キ物
ヲハ用捨ノ心有ベシ。一向ニ思フベカラス。少辛キ物ヲ以肝
氣ヲ、サヘ。肺ニカヲソヘ。脾胃ヲ補テヨシ。肺ハ脾ガ子

ナリ。子ヲマシテ母ヲ補ナルベシ。夏ハ火ノ旺スル時ナリ。肺ノ臟火ノ尅ヲ受テ死ノ位ナリ。苦キ物ハ用捨心有ベシ。一向ニ思フベカラス少鹹キ物ヲ用テ心氣ヲ抑ヘ腎ニカヲソヘ肺ヲ補テ善シ腎ハ肺ガ子ナリ子ヲマシテ母ヲ補フナルベシ。玉用ハ四季ニ在トイヘドモ。夏秋ノ間ニアルヲ本トス。秋ハ金ニテ肺ノ臟旺ヲ持時也。木ハ金ノ尅ヲ受テ肺ノ臟死ノ位也。少シ苦キ物ヲ用ヒテ心ニカヲソヘテ。肝ノ臟ヲタスクテヨシ肝ガ子ナリ。子ヲマスハ母ヲ補フナルベシ。冬ハ水ニテ腎ノ臟旺ノ位也。水ノ尅ヲ受テ心ノ臟死ノ位ナリ。少シ其キ物ヲ用ヒテ腎ヲ抑ヘ脾胃ニカヲソヘ心ノ腑ヲ補フ。五ハ火ガ子也。子ヲマスナリ。五臟ノ本

浮トハ藥ニ
補補浮浮温温
ノノ四四ツツアリアリ
浮浮トトハハ下下ススクク
ススリリヲヲ云云

味ハ少シ用則ハ補フ多用則ハ浮ニナル。實ニ天理ナリ。脾胃ハ水穀ノ海ニシテ食ノ腑ナレドモ少食ハヨク五臟ヲ養フ大食スレバ溢シテ必浮下ス。是ヲ世事ニアテ、見レハ多欲ハ身ヲヤブリ。少欲ハ身ヲタスクルガ如シ。酸キ物少食スレバ肝ノ臟ニカヲソヘ多キハ毒ナリ。脾胃ニ思シ其キ物少食スレバ脾胃ヲ養フ。多ハ胃ニ食ヲ滯ラシム。砂糖ノ胃火ヲ長ズルガ如シ苦キ物少食スレバ心ニ補アリ。過レバ心ヲ浮ス。又肺ニタマル。苦ハ火ノ化ナリ。沙糖甘草トイヘドモ焦ル、時ハ皆苦シ。焦レタル物ハ肺金ヲコガスベキカ。音聲ヲ出スニ其キ物ハヨシ。金ヲ生ズル故ナリ。苦キ物惡シ火尅金ノ故カ辛キ物多ク食スレバ肺ヲ損

健忘 トハツツトリ

トシテヒタトモノワスレシ

病ナリ

眩暈 トハメテ

多ククラミノ病ナリ

大概 トハス御一三

が如シアラ

マシカクノゴト

レ大凡ナド云類ト同ジ

ス。山椒ノ真氣ヲ散ジテ健忘スルガ如シ。又肝ノ臟ノ尅味ナル故ニ。山椒多ク食スレハ眩暈ス。鹹キヲ少用ユレバ腎ヲ養フ。多ハ腎ノ毒ナリ。塩ヲ好ニテ多ク食スルハ腎弱キ故ナリ。同類ノカヲカフントスルモノ也。然レトモカラノヨハキ人ガ人ノ手ヲトラヘ我カニゼンニスルガ如シ。巴ガチカラ弱フシテ大カノ者ニ取ツケバ。カヘツテ引倒サル。ガ如シ。世話ニヨハキ家ニツヨキ梁トキラン。大概内ヨリ外ヘシラスルモノ也。食ヲ思フハ胃中ニ食盡タル事ヲシラスル也。此時食スルハ病ニ藥ヲ飲カ如シ。欲ニテ多食スル故ニ毒トナル水ノ飲タキト思フハ内ノ熱スル事ヲ外ヘシラスル也。少ノムハ藥ノ如シ。欲ニテ多ク飲テ冷ニアテラ

ル、モノ也。アツキ物ヲ好ムハ内ヒユル故也。夢ニ河水ヲ見ルハ内熱スル故ナリ。願フ心有テ夢ニ見ユル。火ヲ夢ミルハ内ヒユル故也。火ヲ願フ道理ナリ。高キ所ヘ上ルノホルト夢ミルハ上氣ナリ。高キ所ヨリ墜ルオツルト夢ミルハ氣ノ沉ム故ナリ。大小便ナドノ此彼ニアリテムサキ事ヲ夢ミ。或ハ又鳥獸ナドノクサシテ勝ノ不淨ヲ夢ミルハ心氣盡テ上達セズシテ。我勝ノ間ニ我心陷テアル故也。鳥獸ナド、思フナコレ巴ガ勝ナリ。我心ガ勝ノ間ニアルヲハ辨スシテ。夢ニ外ニ在ヲ見ルノト思フモノ也。心腎盡タル時ハ死ノ久シキ人ヲ夢ミルモノ也。タトヘハ年寄ノ今ノ事ヲバ忘レテ。五十年三十年以前ノ事ヲ能覺ユルガ如シ。唯今

現在ノ人ヲ不見。昔ノ人ヲ見ルハ真氣絶シ當分ノ事ヲバ
忘却シテ。真氣ノ正シカリシ時ノ覺カ残テ死セル昔ノ
人ヲ見ルナリ。精神盡タル故也。捻ジテ藥ヲモ不断飲バ
キカヌモノ也。毒ニナル物モ頻リニ食ナルレバ。腹ト毒ト
ガ知音シテ。サマデタ、ラヌガ如シ。藥ヲ常々ノメバ。大
事ノ急ナル病ノ時。急ニキカサルモノ也。數服重レバキケ
ドモ五服六服ニテキカザレバ。藥相應セヌトテ其藥ヲ
替ヌル故ニ。療治定ラズシテ病結アアヤシキ事也。藥
ノ腹ニシマヌヤウニシタルガヨシ。譬バ人ニ異見スルニナ
レナレミタル人ヲハ。心ヤスク思ヒテキカヌモノ也。常一
ナジニ又隔心ナル人ヲバ耻テ同心スルモノ也。灸治ナ

ドモ年中絶ススレバ。後々ハキカヌモノ也。春秋ニシテ
又其間ニモ程ヲ置テ思ヒモカケヌヤウニシテ。不圖シ
タル灸ハ能キクモノ也。人ヲ折檻教化スルニモ。日々二喧
ク言ヘバキカヌモノナリ。折々時分ヲ以。ハキト云テ常
ニハイハヌカ吉。山城ノアル山寺ニ長命丸ト云藥アリ。他
ノ國里ヘ取テ行飲バ。不思儀ノ驗アリ。其寺ノアタリ其
里ノ者ニハキカヌナリ。近所ノ者ノ腹中トハ藥ガ別而ノ
知音ニテ。早速ニハ相應セヌモノ也。サレバ湯ノ山ノ湯ノ
道理ニカクヤアラン。一切ノ初物ヲハ少ツ、食シテ連々
ニハ多ク食テモタ、ラヌモノ也。梨柿ニテモ去年終
テ今年初ニ食スル故。腹中ニ遠ノキタルニ因テアタ

折檻 トハ
蒙未

ニ朱雲云

八帝ヲイサ

権ヲオシ

折シヨリハ

ヲイサメイ

ケンハハ事

ヲ折檻ス

云ナリ

教化 トハ
教ヲ

レユル也化

アシキ事ヲ

アラタムル也

入ノアシキ

事ヲ教ハテ
ラタムルヲ云

三日不相見為舊
 日者トハ古語
 也日々ニ參會シタルハ
 千二日ホドハ
 大レリスレバ
 ハヤナク心
 出來ノト也
 聚飲トハ
 フオサメア
 ツムル義也

ルモノ也。毒ノイクニ藥ノキクモ灸ノキクモ針ノキクモ
 同ジ。程阻リテハ毒モ藥モハタトシルニアリ。人モ久ク
 遠ノケハ互ニ關心アルガ如シ。三日不相見為舊日者トイ
 ヘリ種々ノ食味ヲツラヌル中ニテモ初ハ燒モシ烹モシ
 タルヤハラカニアタ、カナル物ヲ食シテ。次々ニサシニ膾ナド
 フバ食シテヨシ。酸物ハ腸チ、ミテヒズノビヌ所ニハ必氣聚
 リテイタミヲ生ス。アタ、カニヤハラカナル物ヲ食シテ。ヨク
 胃へ食ヲウケシメテ。後酸物ヲ食スルハ。胃ヲオサムル心有テ
 ヨシ。酸物ハオサムル道理アリ。聚飲ノ味也。過ルハ又惡シ。
 朝ニハ辛ノ苦キ味少シ用テヨシ。冬クハアタル朝ハ氣外テ
 肺ニアツマル五臟ノ氣肺ニ朝スレバナリ。辛キ物ニテ胸ヲ

ヒラキ。食ヲ胃へオサム。晚ニカ、リテハ。其ク酸物ヲ少シ
 用テヨシ。過ルハ何モ惡シ。其ハ胃ヲヤシナシ。酸ハオサムル
 味ナレハ。胃ヲオサメ。肝腎ニ情ヲ閉テ。明朝生發ノ氣ヲ
 期スヘキカ。五味イヅレモ過レバヤブラル、物也。然ルニ塩ハ
 終日食スル物ゴトニ不入ト云事ナシ。シカレトセ過ルノ
 ワザハイナシ。唯是水ト相應スル故也。終日食スル物ミ
 ラ以調フ故ニ。ホヲ不食ト云事ナシ。又一日ノ中ノムオ多
 シ。其水ト相應スル故ニタ、リナシ。一ヒ子リノ塩ヲ三舌
 ニ置時ハ甚鹹シトイヘトモ。一盞ノ水ニ投シテ飲ハ塩ハ口
 ニモ覺エサルニテ得心スル事ナリ。又人ニ踰テ用ユルト
 キハ咎アルベシ。常ニ氣ヲ調フト云事簡要ナリ氣平



二炷トハ香
トテ夫婦ア
ヒアツ云

和ニシテ心ノ悠々トアル事也。偏ニ氣ヲ補ニモアラス。偏ニ散スルニモアラス。藥ヲ以トシテ事ハ醫ノ巧ニアリ。氣ヲ以テ氣ヲ調ル事ハ我ニアリ。然レドモ我ト怒ヲ解。胸ノ鬱ヲヒラク事ナリ難キモノ也。是ヲ拂ハント思ハバ。氣ヲ物ニ遷シテ。其物ニ我怒ヲ奪ハセ。我鬱ヲヒラカスベシ。花ヲ折テ瓶ニ入テ。花ニ奪ハセ。香一炷焼テ。香ニ氣ヲ奪ハスベシ。痛ク賤ノ立事アラバ。フリテ天ノ月ヲ見ルベシ。鳥獸ニモ心ヲウツスベシ。向フ物ニ氣ヲ奪ハスレバ。兎角スルウチニ怒リトケ結ル、氣散テ。フノンカラ調フモノ也。其怒一トシテ鬱ニ閉ラルレバ。氣伸ン様ナシ。罪業ト云モ胸ニ殘ノ留リテ去ヌガ着ト成カレナイヘリ。

此記トハ
ヒ人ノコト也
配トハ配偶
トテ夫婦ア
ヒアツ云

我心ガ物ニツキテ其物が我ヲナヤマス事ナリ。彼我ヲナヤマスニアラス。我ワレヲナヤマス道理ナリ。万ツノ兇事ニテ物ノナラルモ。潜ニ氣ヲ奪ハスルノ道理ニヤ通ジヌシ。○サレバ或女胸ニ氣アガリテ猛々トシテ久シク煩フ。諸醫手ヲ盡シテモ其験ナシ。コトニサル醫者ノ云此女人ノ病ハ戀ノ思ヒアリ。心ヲ佗ニ配シタル人ナリト云。此女是ヲ聞テ以テ外怒リ。努々左様ノ心ナシ。イカナレバ此醫師。我ニアラス難ヲ云付ルゾトテ。俄ニ黒雲ノサシオコルゴトクニ怒リテ後。右ノ病人藥ヲノメズシテ平愈ス。醫者ノ一言ニテ胸ノ鬱ヲ奪ヒ取ル計ナリ。氣サカンニ脾胃モ尋常ノ人ハ一日ニ二度心ニ足ホド食シテ。間々ニ物ヲクハ

粒米トハ
コメ
トナリ

上病
トナリ

ヌヤウニ。腹中ヲシツケタルカヨキナリ。サアリトテ一度
ニ飽食スルハ悪シ。氣弱ク脾胃遲シカラヌ人ハ少ヅ、細
食シテ胃ノ氣ヲ引アグルガ養性ナリ。氣虚ノ人ハ何ナ
リトモロニ入レ。或ハ湯ヲ飲テモ氣ヲタスクルガヨキナリ。
粒米ニテモロニ入テロヲ動セバ。則胃ノ氣ノホルモノナリ。
濡ヲトル灸ニテモロへ入。是ヲ嚙ニ則口ニ濡ヒヲ生ス。口動
ケハ胃ノ氣其食氣ヲ受テ。其儘ノホルモノ也。唯言ニモロハ
動ケドモ。其時ハ濡ヒ無シテ。食ニ動ケハ濡ヲ生ス。是食ニ
胃ノ氣ノホルル也。胃ノ氣ト云ハ穀氣ナリ。同氣相求
トテ。上ニ穀氣動ケハ胃ヨリ又穀氣ノホル也。氣ハ上達スレバ
メクリテ病ナレ。氣ニテハナシ。下階レテ下部ニアレハ

ルヲ云

様々ノ病ヲナス。氣ノヤムト云事ハナシ。血ハヤムモノ也。氣
ハカタチナシ。ヤムベキ様ナシ。血ハカタチアル故ニヤム血ヲ
ヤマスルモノ也。血ハ氣ヨリ病ヲウク。血トイヘハ骨肉筋皮
皆コモレリ血バカリノ事ヲ云ニハアラス。百病ハ氣ヨリ生
ズレバ氣ニ愈ル事ナシ。風寒ノ病トイヘドモ。風ニヨリ
寒ニヨリテ。表ノ氣内へ迫リ。氣ノ聚ル所ニ熱氣生シテ
外リテハ頭痛シ。氣腰脇ニ迫リテ。ソコクノ疼トナル。是ヲ
風ノ痛トイヘドモ。風ハ病因ニシテ。風寒ニヨツテ氣痛ヲナ
スモノ也。夏中暑ノ病トイヘドモ。暑ハ病因ニシテ。暑ニヨツテ
カヘツテ冷痛ヲヤメリ。風寒ニヨツテ氣病ト也。冷食ヲシテ
食傷ヲヤムトイヘドモ。食ノ冷ニヨリテ腸胃ノ氣滯テ氣

藥劑トハ

何哉ト病ニ
ヨリ方ヲ云
シハ入ラス
クワラ云

薰蒸トハ
ハス也
薰ハフス
ナリ
咳嗽トハ
キナリ

ノ爲ニ腸胃痛ムモノナリ。食傷ノ藥ハ滯氣ヲ伸ル藥劑ナ
リ。悉皆氣ノ病ナリ。人ノ身ノ中へ風ノ入事。戸ノ口窓ノ隙
ヨリ風ノ吹入ガ如クナルニアラス。人ノ皮膚ハ如何ニモ密ト
ニシテスキ間ナキ物ナリ。邪氣乘虚入トハイヘトモ。人ノ膚
イカニ虚ニシテ密ナラスト云トモ。窓ニモチサヨミノウス
布ヲハリテ内空ル家へ風ノ吹入如クナル物ニアラス。風
膚ヲ吹ハ冷テ愈膚ハ縮ミ塞ルモノ也。然ハ猶以風ノ吹入
ベキ様ナシ。冬ハ風寒ニアタレバ表ノ陽氣内ニ入テ。表彌冷シ
バ氣イヨク内ニ迫リ。氣内ニ薰蒸スル故ニ内ニ是ニヨリテ
熱氣ニ其熱頭ニアカリテ頭痛シ。肺ヲ責テ咳嗽シ。鼻ニ
清涕ヲヒク也ス。ハナハ内熱シテ漏故ニユケ肺ニアカ

清涕トハ
トハ
モナキニ出ル
ナニダラ云

リテ鼻へ出ルモノナリ。湯ノ息ノ如シ。外風寒ニシテ内ハ
氣ノ熱也。故ニ是ヲ外へ發散スルニ風氣ト同性ナル藥ヲ
飲ハ内ニ風ヲフセガセ内ニアル氣ヲ外へ吹出ス道理也。
此氣ノ内へ入タルハ風寒ガ外ヨリ吹入タレハ亦其如ク内
ヨリ風藥ヲ以テ出ス道理也。風カ内ニ在テ拂ニハア
ラス。風ニヨリテ内ニ氣迫リタルヲ風ヲ以テ拂ヒ出スノ
道理ナリ。獨活羌活ハ既ニ無風獨搖草トイハハ風ヲ除
ク藥ニアラス。則此藥風ノ性ナリ。防風等皆ヨク動ヒテ
自ラ内ニ風吹テ氣ヲ外へ出スモノ也。氣表へカヘツテ肌ア
タカニ汗出レハ本復ス。飲熱アルハ氣ノアツマリタル所
ノアト猶熱ス。タトヘハ火ヲ拂ヒ捨テモ其跡アツキカ如

リツツカヌ
ヤウニスルヲ
云

○亞聖顔回
亞聖トハ聖
人ニツクト云
心ナリ顔淵
名曰孔子ノ
弟子也顔回
大賢聖人
孔子ノ如キル
ノ違ナシハ聖
人ニツク心

スルモノ也。一度ニ多クアタヘヌレバ。事ヲセガルウチニ章^{シタヒ}卧^ヒテ遂^トガルモノ也。少ナレドモ胃ヘ食カ行^キト、ケハツレニテ飢^ヌハヤムモノ也。尤共少ケレバヤカテ消^セシテ。又食ヲ思フ心生ス。其時又少し胃ヘ食ヲ入ヌレバ飢^ヌハヤムモノ也。カヤウニアレバ胃ツカレズレテ五臟ヲ養フ道ニ叶^フタル人トテ。壽命^{レユニヤ}長カラシニハアラス。大聖孔子モ七十三ニシテ終^ナリ玉フ。亞聖顔回ハ不幸短命ニシテ死ス。タ、天命ヲ稟^タタルニ多少ノ不同アリ。其稟^タタル程ノ血氣^{ケツク}盡ヌレハ終ルモノ也。身^ミ持^チ心持^チ能^クシテ壽^{イシチ}ノフルモアリ。惡^{アレ}クシニツツマ^ルモアリ。ツツマ^ルト云ハ七十八十マテモアルベキ命ヲ。食事^シ始^メ事^シヨロツノ行惡ケレバ。不圖^ス二十ヨリウチニテモ死スルモノ

云

也。又能保養スレバ六十マテ生^イベキガ七十八十マテ七長命^ナフルモノ也。心持道ニ叶^フタル故ニ命^{ミナキ}短モアリ。又道ニカナハヌ。ヨリテ命長キモアリ。道ニ叶^フテ短キハ何トシタル事ナレバ。道ノ爲^タ身^ミ心^{シン}ヲ苦^クシムル故ニ命ツツマ^ルモノ也。人ノ爲^タニ身^ミ心^{シン}ヲクルシムルハ仁愛^ニナリ。故ニ身^ミヲ殺^スシテ仁ヲスル事アリト孔子モノ玉ヘリ。身^ミ心^{シン}ヲ苦^クメテ仁義ヲ闕^クマレキト思ヒ。禮ヲ闕^クマレキト思ハ。身^ミ心^{シン}苦^クシム也。一言^{コト}ノ約^{ヤク}ヲチガヘヌレバ信^シナキモノ也ト思ハ。行^キマレキ所ヘモ行^キタク居^ルマレキ所ニモ居^ル。長坐窮^ク屈^クニ苦^クシミ。風雨霜雪ヲモ不顧^ス。信^シノ爲^タニ身^ミ心^{シン}ヲ苦^クマシム。是皆道ニ違^フマレキト思フ故ナリ如此ナラハ道知故ニ壽^ハ短キモノ也。士民百姓

ノ道トモ何トモ知ヌ者ニ長命ノ者多シ。是ハ心ニカ、ル
事ナクテ命ノバユル者也。亦道ニ叶ハヌ故ニ命ノ延ルトハ
道ハ知ナカラ道ヲ潜メテ仁ニモ心ヲ苦メス。義ニモ禮ニモ
苦メス。只心ノマ、ニシテ人ノ苦ミヲモ思ハズ我サヘクル
カラスハト思ヒ人ノ急クニモイフカズ心ノ向フヤウニ身ヲ
持人ハ一切道ニハカマヒナク。偏ニ身心ノ安キヲソレト思フ
故ニ命ノツマニルヘキ様ナレ。是ニヨリテ我ウケタル血氣
ノ盡ルマデハ生ルモノ也。幸ニシテ長命ノ者ト。不幸ニシテ
短命ナル者トノ身心理ヲ以テ細ニ心ヲ著ベシ。大カタハ
天命ノ血氣程ノモノ也。養性ノ道ヲ能心得タラハ少ハ命
長ケルベシ。又養性ノ道理ヲハ得タレトモ心ノマ、ナラヌ

養性

十

悶心ト心
不開
モダユルヲ云
ナリ

身ハ得タル道理ヲモナレ難シ。心ニ任セヌ身ハ思ヒナカラ
ニ果ヌルモノ也。氣有餘ノ人ノ爵病ハ氣ヲハタラカレテ。氣
ヲフル時ハ爵氣散ジテヨニスグルハ虚ニカヘル也。氣不
足ノ人ノ爵病ハ氣ヲハタラカストモ其動ヲハヤクヤメ、遠
見シテ氣ヲハラストモアサクシテ頓テヤムベレ。氣スク
ナキ時下へ陥リテ上達セズシテメクラス。故ニ氣滕々ト
シテ。爵ノ病有ヤウニ覺ユルモノ也。真氣不足ニシテ短少
ナレハ悶心アリ。必鬱ニハアラス。然ルヲ爵ナリト心得テ。氣
ヲハタラカシ。ウキハシル事ヲヨシトシ。是ヲ養性ナリト
アヤマル事アリ。當座ハ少アル氣ナレトモ引立ル故ニ一段
ト氣ハヨキモノ也。然レ氏太躰氣スクナケレハ。氣一度

ニ少ヅ、ナレドモ減テ後ハ引立レドモタ、ヌヤウニナル物也。カヤウノ人ヲハ氣ヲ引立ルニモ引立様アルベシアサくト輕キ事ニテ引立ルガヨシ。一旦戸障子ヲサラリトアケ。花ナトニ水ヲ灌キ、亦香ナト燒朝夕立テアル屏風ナリトモ立カヘテ。座ヲアラタメナトスルニテ。氣ヲ生ズル物也。我ハ生レツキ氣卓散ニシテ丈夫ナリトテ、生レツキヲ頼ムヘカフズ。氣ハツカフガ善也。氣ニツカハル、ト云事悪キ也。志ヲ氣ノ大將トシテ、カケヒキスル事專一ナリ。爵ヲハラストテ誤テ氣ノ減事アルモノ也。實爵ハ氣胸ニ聚リテ悶々トシテ心アレキモノ也。氣強クシテ能メグレドモ七情ニ引トメラレテ爵スルモノ也。虚ニシテ爵スルハ氣下部小腸ニアツマ

喘トハ論書
一疾息ナ
リトテ行ツ
クテ息ガ

リ。三焦ノ氣フサガリ。氣上達セズシテ。是モ胸架ルヤウニシテ。タメ息ヲツクモノナリ。虚証ニシテ氣下部ニアラハ胸ニツカヘ息トラシキ事ハアルマヅキ議ナレドモ。胸ノ下ニテハ氣ノホレドモ。ホリ達セズシテ。胸ノ下ニツカヘテアル故ニ息トラシキ事ハ同じヤウナレドモ。實証トノカハリアル也。實証ノ爵ハ氣ハメグレドモ何ナリトモ其思フ事。カナレム事。憂ル事ニ引トメラレテ。爵スルト。氣ノホリメグル事ナラスシテ。ム子ニ逗留スルトノカハリナリ。假令三町ノ道ヲ得行ツカスシテ。二町目マテ來テ。フコニテ喘キ居心ナリ。是ハ力不及シテ如此ナリ。氣ハ健カナレハ七情ニトメラレテ上達セス。下ヘメグリカヘラスシテ。中途

シテラク体
ハ弊也

ニ逗留シテ胸ニツカユルトノカハリ也。氣ト體ヲ分テ養性
ノ心持アルベシ。躰ヲ動カシツカフヲ養性トス。過ル時ハ躰
疲ル。氣ハツカハズシテ静ナルヲ以養フトバカリ心得テ静
カ過レハ氣沉ミ一所ニ滞テ對ノ病ヲナス。氣ハ全體ニ渡
リテアルモノ也。體ヲ使フ時ハ即氣ヲツカフ然ルニ氣ヲ使
ハヌヲ養ヒトシ。體ヲ使フヲ養トスト云事心得難シ。氣
ヲ使フト云ハ思惟分別アリテ。氣ノツカレトナル故ニツカ
ハヌヲ養性トストイヘリ。氣ヲツカフト云ハ心ヲ兼テ云
ナリ。心ハムカフ物ゴトニ慮アリ氣ハ非情ノ物ニテ水火金
土ノ氣ト同シ。慮ル事ナクシテメグル計ナリ。故ニ躰ヲツ
カヘハ氣ハ慮ル事ナクシテメグルハカリ。躰ヲツカヘハ氣メ

羸トハ心
モノニ
情ツキテ
草卧ル云

氣ハ五
穀ノ
食シテ人
體ヲ養フ云

グル故ニ滞ル病ナレコトヲ以躰ハツカフヲ養性トス。心ハ氣
ヲノリモノトシテ氣ニノリテハタラク。心ハタラキ過ヌレハ
ツクル物ナリ。慮リ多キトキハ心羸ル。氣ハ動キ過レハテリ
テヘル物也。心ハ知慮ニ減レ。氣ハ動轉ニヘル物也。氣ヨリ心ヲ
惜ミ心ヨリ氣ヲシヅメテタカヒニ養性スヘレ。元氣ハ胎内ニ
在テ母ヨリ我ニ傳タル氣ナリ。臍ノ緒ヨリ傳タル物ナリ。
故ニ臍下ニ在血ニモアラス水ニモアラスシテ動クモノ是
也。氣ハ動クヲ体トスル故ニ動コトスグレバ氣ヘリ。又曾テ動
カサレハ氣滞ル物也。其動事中ヲ得テ善元氣ヲ日夜ニ動
キハタラヒテツカヘトモツキヌハ穀氣ヲ以養フ故ナリ。穀氣
絶ヌレハ元氣モ消スル物也。元氣ハ油ノコトシ。油タユレハ

配ハク
配ハク
今云

燈消ルカ如シ。中氣トハ脾ノ氣ナリ。脾ノ氣ハ穀氣ナリ。脾
氣ヲ中氣ト云事。脾ハ土ナリ。中土ノ官ニテ土ハ中央ニ居テ
四方ノ事ヲ主レリ。脾ノ臟ヨリ四臟ヘ氣ヲ配ル事ナレバ。脾
胃損レテハ四臟トモニ養ヒナキ故ニ五臟トモニ盡ヌレハ元
氣ノ立ヘキ所ナシ其本ハ元氣ナカラ其元氣ヲ継グモノハ
脾胃也。一大事ノモノ也。脾胃ハ中ヲ得ル物ナレハ食過シハ
惡シ。亦乏キモ力弱シ。中ヲ得テ養性トスベシ。脾胃ニハ
物ノトマリフサカル事ヲ嫌フ。通利シテアラタメアラタ
メレテ前ノ食ハサキヘ傳ヘツタヘレテ不殘様ニスレカヨシ。
下地ノ食盡ヌニ又追カケオヒカク物ヲ食フ事。甚々惡シ
胃ヘ食ヲオサメテモ。胃中ニ滯レハ。胃中ニテハ食物損ス

吞酸トハ
シテスキ水
ハカリマシ
ト云

ルホトニ損ジタル物ヲ食シタルト同ジ事也。胃中ニテモツ
コ子又ヤウニ心得ベキ事ナリ。胃中ニテツヨスルトハ。前ノ食
モ消セザルニ。又追カケテ食スレバ重リテ滯ルニヨツテ。食
物内ニテ損スルモノ也。サレバ酸ヲクビノ出ルハ。食ノ内ニ
損ジタル氣溢テ口ヘ出ルモノ也。是ヲ吞酸ト云。
右ノ養性心持ノ次第。或人ノ書置レシヲ。我其以前東ノ
旅ニ赴シ時。所望シテ見侍レバ。其中ニ宜キ事ノミ多ケ
レバ。一向ニ醫ヲ不知人ノ助ニハナルベキカト慮テ。此書ニ
載テ世ニ廣ム

古今養性論和解

此一書不知誰人選述焉雖然俗間日用
養性之論詳明而不學而自得醫家之大
綱者也故略加頭書令版行者也

古今養生論補篇

華洛 居行述

莊子に上寿百歳中寿八十歳下寿六十歳と説七
十は古來稀なりといふ聖語と有りて壽長たると
かゝるべきの世に熟せと乃有るはをえり小赤子七歳
乃らんに夭亡するをいふとして小児のうちに殤むる者
かぎりなきを成人一を母の法より母の法を
らんに歿する者救ふる者後世にありて四十
とにわやくハ死一と長寿とをくらがるといふ人

せどんを習得しつゝはあをひて貝原先生を行佳
坐外乃事と深却小志あり養生の事といひ
養生論中と陽丸乃發歛とくく説て養生を
志せり何れも學者乃らやわりて格言か
らなり然る小不学盲昧の身ある愚くおよ不
あし柳不同とのあり世乃人ともく小養生
訓乃趣小なり時刻く養生法とすと下贈とと
温光しと喰らざるやにても久も長命の事なり

又老翁の学を授け來り禪家の源流とて
りそんぐ大不れを傳はれ學ぶふりて臨場の消息
とり少人とあそむる山中の短命の人多
一農夫が此属文字の事と一向にこれ一編
乃人小も八十九十を女ありとの間ありあつて
てみも養生大術とてあつてふとてあつて
小も何れも自然の道理小をわすれぬ
金さし思つる唐子西古硯銘と書て曰硯筆と

養生性

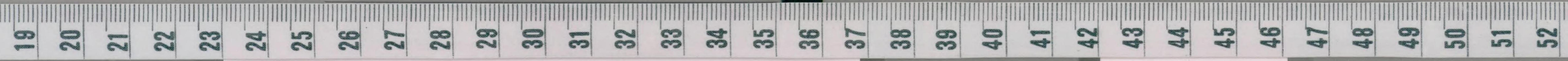
二十一



墨ハ蓋丸類なり者ふたふと味く羽く脚との
やうかしの好うその内一おぢとハ二おもぢと事
しるるものありて候用ひらる事も密をせし事
もお進まぬりきく好むがらうものハあなのことし
筆の事と日とて計墨の事と月とて計硯の
事ハ世とて計その故何れもその體をたし筆ハ
最と鋭墨とハ不次硯と鈍との好り豈鈍とのハ
者少して鋭とのハ夫も不たしと也と用たりと筆ハ

最と動墨とハ不次硯と静との好り豈静の
者ハ少くとも動とのハ夫も不たしと也と吾於是得
養生焉鈍とて體として静なりとて用しやと或曰
夫ハ大ハ數なり鈍鋭動静の制する所なりと倍
令筆鏡とて動と静とも吾々の硯と好む久遠
かりとて好むと云ふと然りては寧ろ此を
せよかりと云ふ事なりと 然曰不能鏡因以鈍為體
不能動因以靜為用惟其然是以能永年と

養生性



いへり又素駝が樹と種を傳せしむ素駝曰くもく
 本とて多く且薬も多し其の天不彫ふ
 てよりて其性を致しをよりての其培い早し其
 築こし密くして既不然し已て後ハ勤くして其慮
 ろあかりと去てさる顧ふも其時や子此若し其
 置しハ棄たる若しよ則ち其の天をる者全而その
 性得るを我も其性論を医学をよりて養生の主
 意は自分の性を成しを其養生の医学を小せり

小の養生があはれしむる容易である事小の
 養生訓の如く平日の刻々養生するも進退行
 動食事起居と玉とをよりて身は美切りて
 わる事なるもの身はつと身持をさるる
 居る事のみ人かたも所のまこと世に此が
 能く人を治する者一夫事ふるなり具ハ必
 怪我の如く養生の如く養生するも日用
 心とわれどきも養生の如く養生するも日用



おもひては養生にむかひて色をみまらさば養生にふんぞり
 とくをわして長寿の為ならず蓋のゆるぎもれ
 かへと思ひ養生に迷んく自得と體に儉約
 とくすまひ天の先づ富貴を以て親族をりし
 おもひて郷黨よりとけりて又懐ひて
 貧賤のくもを思はば窮迫とくみど此と體
 とすの意を以て用と静少くを安て福を養ひ胃
 と寛して蔬食を喰ひ貴と者て財を養ひ思慮は

せめてそ神と養生に如くもはるのけし心な
 一酒滴をそのみとせず吾とすきてわ
 考ふ事かまは心気と純教とりの様か一人
 期をわくわくわくわくわく養生の根本なりて
 其の事各枝葉あり樹木をたすそみ
 雨露乃潤ひのすくぬる處に置は枯葉のやふかりて
 枝葉す多く繁茂せり日晷のわくを處に置は
 青くくくくくくも木も枝も柔軟なりて繁



863
196

19529

茂せど風の通^とを處^こ不^た置^はハ蒸^し稿^ごの枝^えきん^ん
 又^{また}繁^は枝^えせど日^ひも怒^お而^に為^なる^る能^よく^く用^{もち}も
 能^よく^く處^こふて人^{ひと}のさ^さら^らる^る事^{こと}か^から^らり^りぬ^ぬ
 繁^は枝^え下^{した}人^{ひと}も又^{また}の如^{ごと}く^くさ^さら^らる^る目^め暑^{あつ}き目^め
 小^ことあ^あひ^ひか^かお^おお^おふ^ふを^をし^して^て有^ある^る事^{こと}も^も何^{なに}の^のあ^あの^のと
 り^りの^のか^から^らぬ^ぬを^を安^{やす}く^くと^とさ^さら^らす^すハ^ハ横^{よこ}本^{もと}の^の繁^は枝^え
 する^{する}理^りを^を衛^ゑ氣^き留^り留^りする^{する}事^{こと}も^も一^いの^の学^{がく}血^{けつ}と^とも^もり
 大^{おほ}く^く風^{かぜ}寒^{さむ}暑^{あつ}湿^{しつ}乃^{すなは}外^{がい}邪^{じや}入^いる^るを^を乃^{すなは}間^ま隙^{げき}か^から^らず^ず

風^{かぜ}寒^{さむ}暑^{あつ}湿^{しつ}の^の氣^き小^こ傷^{やぶ}と^とも^も内^{うち}喜^{よろこ}怒^{おこ}哀^{あは}樂^{たの}愛^{あい}惡^{にく}欲^{よく}
 の^の七^{しち}情^{じやう}小^こ害^{がい}や^やら^らず^ず中^{ちゆう}の^の事^{こと}も^も自^{みづか}然^{ぜん}小^こ天^{てん}命^{めい}と^とも^も
 人^{ひと}を^を知^しる^るを^を宇^う宙^{ちゆう}乃^{すなは}か^から^らず^ず世^せ界^{かい}
 萬^{ばん}國^{こく}の^の大^{だい}の^の知^しる^る自^{みづか}己^こを^を身^みに^に塵^{ちん}埃^{あい}ふ^ふひ^ひと^とも^も
 惟^{ただ}り^りぬ^ぬを^を也^{なり}

長^{なが}け^けの^の欲^{よく}を^を止^とめ^める^る心^{こころ}と^とも^も止^とめ^める^る心^{こころ}と^とも^も

遠^{とほ}里^り



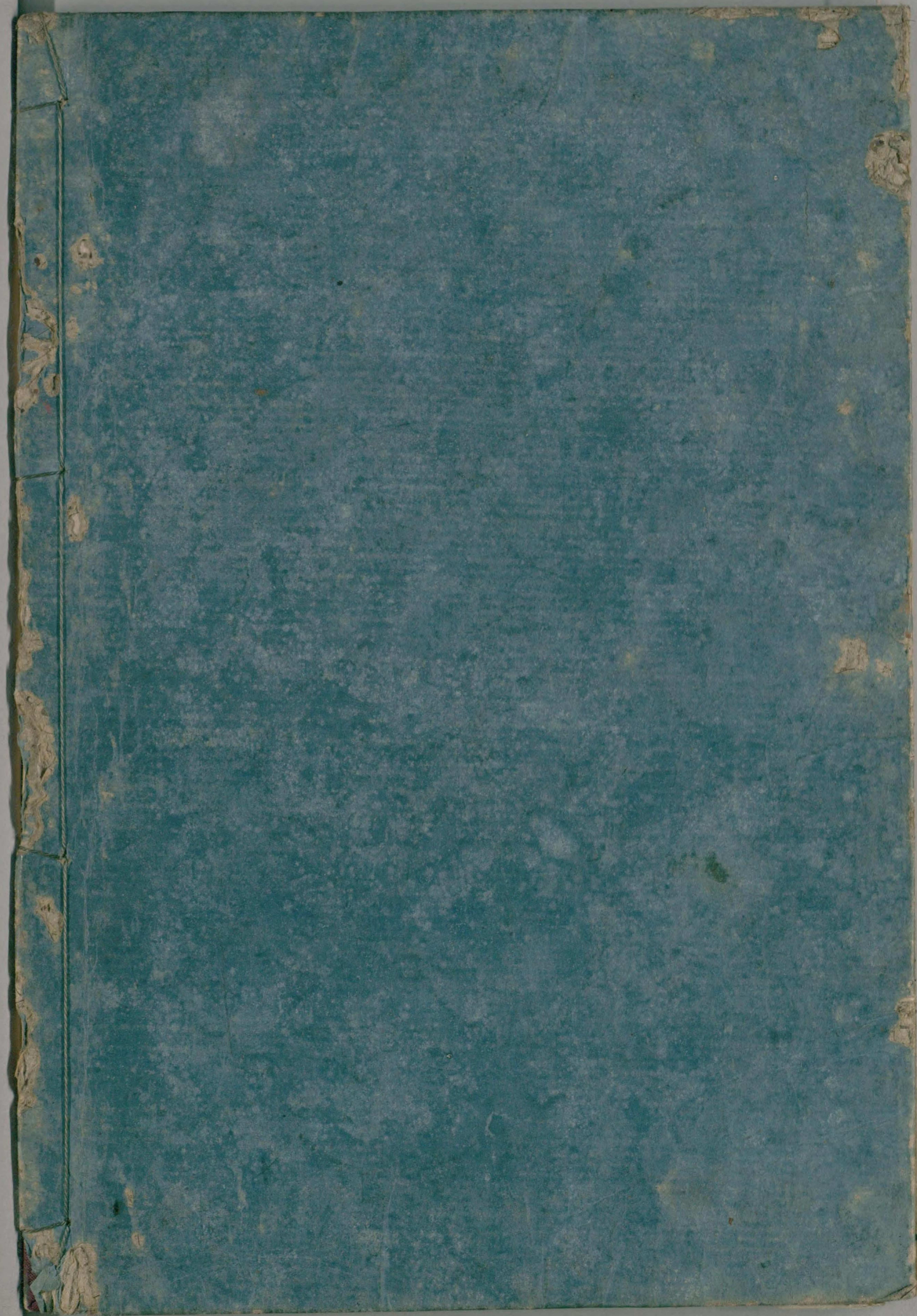
828

天明八年申正月

養性論

三十一日

天明八年申正月
 養性論
 養性論の序
 養性論の第一
 養性論の第二
 養性論の第三
 養性論の第四
 養性論の第五
 養性論の第六
 養性論の第七
 養性論の第八
 養性論の第九
 養性論の第十
 養性論の第十一
 養性論の第十二
 養性論の第十三
 養性論の第十四
 養性論の第十五
 養性論の第十六
 養性論の第十七
 養性論の第十八
 養性論の第十九
 養性論の第二十
 養性論の第二十一
 養性論の第二十二
 養性論の第二十三
 養性論の第二十四
 養性論の第二十五
 養性論の第二十六
 養性論の第二十七
 養性論の第二十八
 養性論の第二十九
 養性論の第三十
 養性論の第三十一
 養性論の第三十二
 養性論の第三十三
 養性論の第三十四
 養性論の第三十五
 養性論の第三十六
 養性論の第三十七
 養性論の第三十八
 養性論の第三十九
 養性論の第四十
 養性論の第四十一
 養性論の第四十二
 養性論の第四十三
 養性論の第四十四
 養性論の第四十五
 養性論の第四十六
 養性論の第四十七
 養性論の第四十八
 養性論の第四十九
 養性論の第五十



国立国会図書館 タイトル『古今養性論和解』 請求記号 863-196

ガラス使用